

「ふね遺産」(応募様式) : A4 一枚に収め、それ以上は別途資料添付して下さい。

2017 年 11 月 30 日提出 岡本 洋

住所 : 657-0066 神戸市灘区篠原中町 3-1-4

メールアドレス : VEB02273@nifty.ne.jp

その他の連絡先 : 電話 078-871-0523

| No.(*) | 内容 | 備考 |
|--------------------------------|---|--|
| 1. 対象物・資料の名称・所属または所有者 | 川崎重工業株式会社 神戸工場 650-8670 兵庫県神戸市中央区 東川崎町 3 丁目 1 番 1 号 | ・ 明治期に同工場現在地内に建造された石造りの近代的造船ドック。 ・ 開港後発展期における神戸港最初のドック |
| 2. 対象物の作成・存在時期 | 建造時 1902 年(明治 35 年)11 月完成 以後継続稼働 拡張時 1959 年(昭和 34 年)12 月終了 以後継続稼働 1902 年以降 111 年間稼働後、2014 年(平成 26 年)特別に破壊することなく埋め戻された | ・ 建造時内法 130 x 15.7 x 5.5 m 入渠最大船舶 6,000 GT ・ 拡張後内法 161 x 23.58 x 6.58 m 入渠最大船舶 10,000 GT |
| 3. 現状 (写真添付) |  稼働時 埋戻し後 | ・ 111 年間現役稼働、 ・ 阪神・淡路大震災(1995 年(平成 7)1 月被災と、造船事情により、破壊することなくそのまま、埋戻し。平坦な地表とす。 ・ 1998 年文部科学省「登録有形文化財」登録(現在抹消) ・ 2007 年経済産業省「近代産業遺産」認定 |
| 4. ふね遺産認定基準の該当項目(**) | 【認定対象】(2)、(4)、 【認定基準】(1)、(3)、(4)、(7)、(10)、 (12) | |
| 5. 歴史的・工学技術的意義 | 1. 明治造船台頭期の特筆すべき造船ドック 神戸港最初の近代ドックと稼働貢献 2. 個人経営造船所における造船起業チャレンジの特記すべき難工事への挑戦と工事成功 3. 計画期を含め前後 10 年に及ぶ難工事の克服 4. それまでの外人指導より脱し、東大卒技術者による純日本技術者による難工事克服記録。 5. 工事担当の山崎鉉次郎による詳細な工事論文 | ・ 創業者・川崎正蔵の近代造船所確立をめざす全財産・全人格を賭した挑戦、日露戦争目前の時期における貢献。 ・ 社業と共に神戸港の発展に貢献。 ・ 山崎鉉次郎の近代土木技術による挑戦と成功、工事記録の英文論文による工事内容の記録の工学的価値 |
| 6. 参考資料・文献 (本表に収まらない場合は別途添付する) | ・ 岡本 洋・「明治期建造の川崎造船 第 1 ドック」船舶海洋工学会講演論文集第 22 号 ¹⁾ ・ Dr.Genjiro Yamazaki : 英文論文 ²⁾ ・ 西沢靖彦「明治時代に建設された日本ドライドックに関する研究」土木史研究所第 19 号, 1999 年 5 月 | 1) 平成 28 年 5 月講演 2) 'The New Graving Dock of the Kawasaki Dock Yard Co. at Kobe, Japan' Engineering News, A Journal of Civil, Mechanical, Mining and Electrical Engineering, Sept. 24, 1903 |

(*) No.は学会で記載します。

(**) ふね遺産認定基準の【認定対象】と【認定基準】の項目の内、該当する項目を、文頭の番号で記載して下さい(複数項目可)。